令和８年度全国学力・学習状況調査　埼玉県全体〔公立〕の調査結果概要

１　調査概要

➤ 実施日

令和８年４月２３日（木）

※中学校英語は、「聞くこと・読むこと・書くこと」が令和8年4月20日（月）から23日（木）のうちいずれか１日、「話すこと」が令和8年4月28日（火）から5月29日（金）のうちいずれか１日、CBT（Computer Based Testing）で実施。

➤ 調査対象　※原則として、以下の学年の全児童生徒を対象とする。

【小学校調査】小学校第６学年、義務教育学校前期課程第６学年、特別支援学校小学部第６学年

【中学校調査】中学校第３学年、義務教育学校後期課程第３学年、中等教育学校前期課程第３学年、特別支援学校中学部第３学年

➤ 調査実施児童生徒数　※実施児童生徒数が一番多かった教科の人数としている。

【小学校調査】55,178人（さいたま市を含む）／ 44,317人（さいたま市を除く）

【中学校調査】50,529人（さいたま市を含む）／ 41,039人（さいたま市を除く）

➤ 児童生徒に対する調査

【教科に関する調査】❑ 小学校調査：国語、算数　❑ 中学校調査：国語、数学、英語

※以下の①と②を一体的に問う問題が出題されている。

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

【質問調査】学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

➤ 学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

令和８年度全国学力・学習状況調査　埼玉県全体〔公立〕の調査結果概要

２　埼玉県の学力調査結果の概要（教科ごとの平均正答率・平均IRTスコア）

➤ さいたま市を含む

※国語、算数・数学、〔R5〕英語は平均正答率〔%〕、〔R8〕英語は４技能のIRTスコアで示している。

小学校		国語	算数
R８	**県**	**６３**	**５７**
	国	６０.９	５６.４
R７	県	６８	５８
	国	６６.８	５８.０

中学校		国語	数学	英語
R８	**県**	**６６**	**５９**	**５０７**
	国	６３.９	５７.０	４９９
R７	県	５５	５０	〔R5〕４６
	国	５４.３	４８.３	〔R5〕４５.６

※　「教科ごとの平均正答率」とは、それぞれの平均正答数（児童生徒の正答数の平均）を設問数で割った値の百分率（概数）のことである。
※　文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第１位まで、県平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。
※　平成２９年度から、国からの都道府県別の平均正答率における全ての公表・提供資料は整数値に変更されている。
※　ＩＲＴスコアとは、ＩＲＴ（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、５００を基準にした得点で表すもの。
※　ＩＲＴバンドとは、ＩＲＴスコアを１～５の５段階に区切ったもの。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなる。
※　ＩＲＴスコア・ＩＲＴバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。
※　各教科にＣＢＴ・ＩＲＴを導入する年（Ｒ７：中学校理科、Ｒ８：中学校英語、Ｒ９：国語、算数・数学）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出される。
※　令和５年度中学校英語の調査結果は、「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」の合計を集計した結果を示している。

【IRTバンド全国結果】全国学力・学習状況調査「中学校英語」IRTを用いた結果返却について〔国立教育政策研究所HP〕より

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア換算(※3)	~341	342~448	449~556	557~663	664~
割合(%) (※4)	6.4	27.1	36.2	24.7	5.7

（※３）IRTバンドは、生徒ごとに算出したIRTスコアを等間隔に区切って設定しています。令和8年度調査では、4技能IRTスコアの標準偏差（108.1）を基にバンド幅を設定しています。2回目以降の中学校英語についても、令和8年度に設定したIRTバンドの基準を用いる予定です。

(※４)IRTバンドについて、理想的な正規分布となった場合、３が約38%、２・４が約24%、１・５が約７%となりますが、実際の各生徒のスコア状況により変動します。

➤【参考】さいたま市を除く

※国語、算数・数学、〔R5〕英語は平均正答率〔%〕、〔R8〕英語は４技能のIRTスコアで示している。

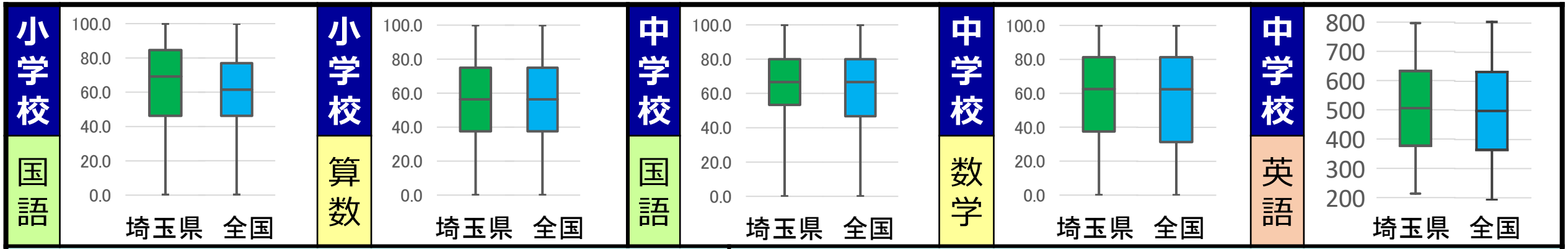
小学校		国語	算数
R８	**県**	**６２**	**５６**
R７	県	６７	５７

中学校		国語	数学	英語
R８	**県**	**６６**	**５８**	**５０１**
R７	県	５５	４９	〔R5〕４５

２　埼玉県の学力調査結果の概要（各教科の正答率等の分布、正答数等の層分布）

➤ 正答率とIRTスコアの分布

※国語、算数・数学は平均正答率〔%〕、英語は４技能のIRTスコアで示している。

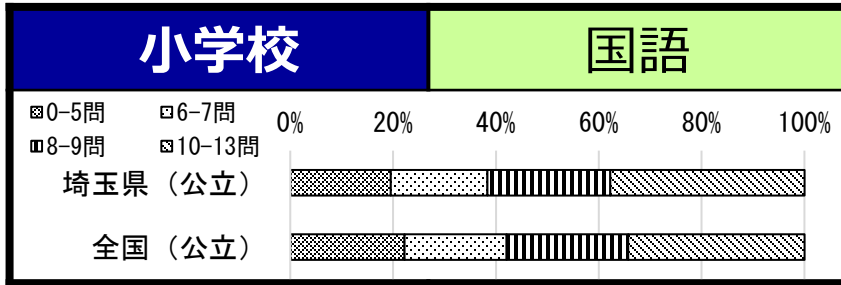


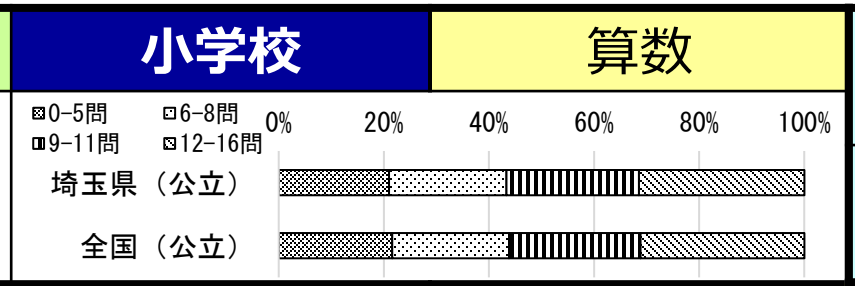
【小学校】➠国語では、中上位層の正答率の分布が全国より高いところに位置している。算数では、全国と同様の分布である。

【中学校】➠国語・数学・英語とも、中上位層の正答率の分布はほぼ全国と同様だが、中下位層は全国より高いところに位置している。

➤ 正答数とIRTバンドの層分布

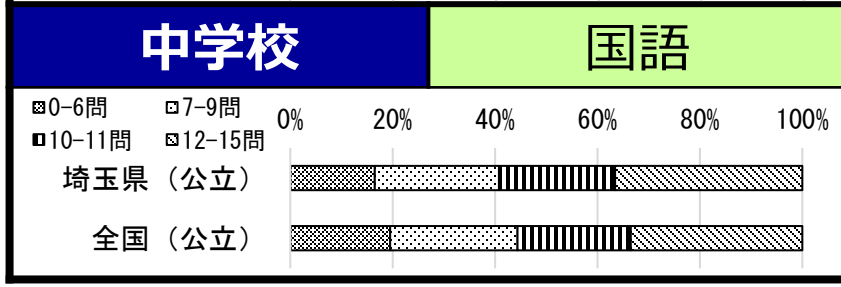
※英語は４技能のIRTバンドで示している。

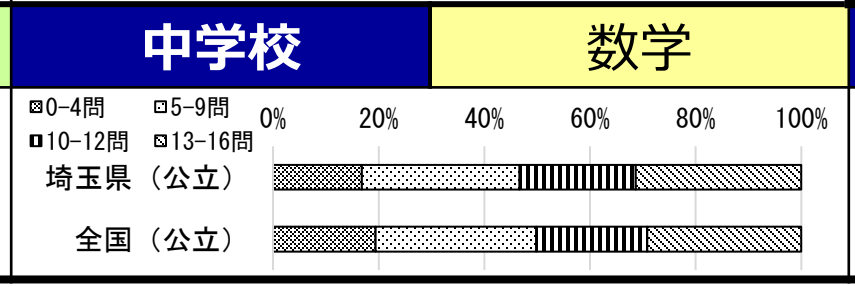


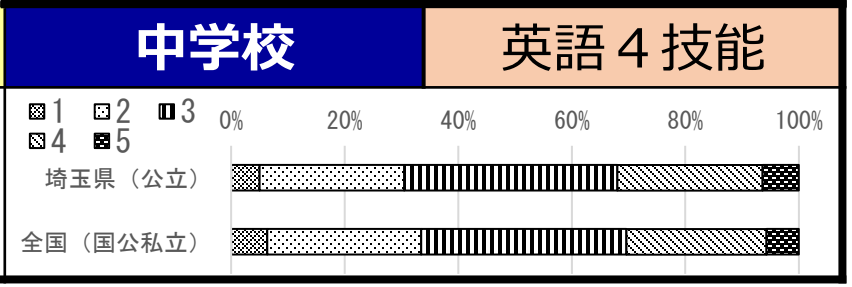


【小学校】➠国語では、全国と比べて正答数の多い層の割合が高い。算数では、ほぼ全国と同様の層分布の傾向が見られる。

【中学校】➠国語・数学とも、全国と比べて正答数の多い層の割合が高い。英語では、全国と比べて高いバンド層〔５・４〕の割合が高い。







３　埼玉県の学力調査結果の概況（県の結果から課題となった設問について）

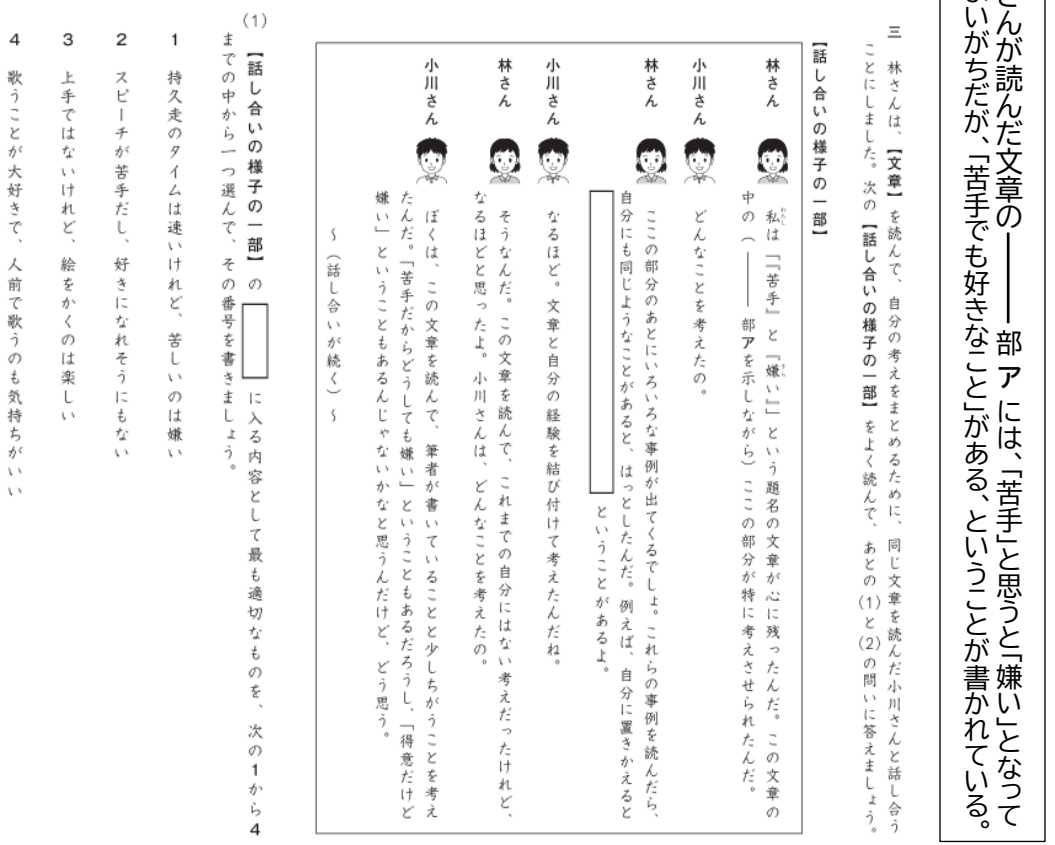
❑【小学校】国語

※正答率はさいたま市を含めた数値　※（　）内の値は全国〔公立〕の正答率

結果のポイント	**目的に応じて、必要な情報を見付けることに課題**がある。（読むこと）【思考・判断・表現】
正答率	５６.７％（５５.５％）
結果の概要 **無解答率** **４.１％** **（３.３％）**	**誤答の「選択肢１〔持久走のタイムは速いけれど、苦しいのは嫌い〕」を選択した**児童が２３.１％（２３.７％）いた。**【文章】の事例　と　正答の「選択肢３〔上手ではないけれど、絵をかくのは楽しい〕」という経験を結び付けることが十分でない**ことが考えられる。
指導改善のポイント ※ポイントの記載内容は国が作成した報告書から引用。	文章を読んで理解したことを基に、**筆者が挙げている事例を自分の経験に置き換えて考えるような学習活動**を充実させることが重要である。

〔設問〕大問３三（１）

【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する問題



三　林さんは、【文章】を読んで、自分の考えをまとめるために、同じ文章を読んだ小川さんと話し合うことにしました。次の【話し合いの様子の一部】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

林さん　私は「『苦手』と『嫌い』」という題名の文章が心に残ったんだ。この文章の中の（――）部アを示しながら）ここの部分が特に考えさせられたんだ。

小川さん　どんなことを考えたの。

林さん　ここの部分のあとにいろいろな事例が出てくるでしょ。これらの事例を読んだら、自分にも同じようなことがあると、はっとしたんだ。例えば、自分に置きかえると［　　］ということがあるよ。

小川さん　なるほど。文章と自分の経験を結び付けて考えたんだね。

林さん　そうなんだ。この文章を読んで、これまでの自分にはない考えだったけれど、なるほどと思ったよ。小川さんは、どんなことを考えたの。

小川さん　ぼくは、この文章を読んで、筆者が書いていることと少しちがうことを考えたんだ。「苦手だからどうしても嫌い」ということもあるだろうし、「得意だけど嫌い」ということもあるんじゃないかなと思うんだけど、どう思う。

～（話し合いが続く）～

(1)【話し合いの様子の一部】の［　　］に入る内容として最も適切なものを、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

１　持久走のタイムは速いけれど、苦しいのは嫌い

２　スピーチが苦手だし、好きになれそうにもない

３　上手ではないけれど、絵をかくのは楽しい

４　歌うことが大好きで、人前で歌うのも気持ちがいい

林さんが読んだ文章の――部アには、「苦手」と思うと「嫌い」となってしまいがちだが、「苦手でも好きなこと」がある、ということが書かれている。

〔出典元〕令和8年度全国学力・学習状況調査　報告書【小学校／国語】P.65～83（https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26plang.pdf）

３　埼玉県の学力調査結果の概況（県の結果から課題となった設問について）

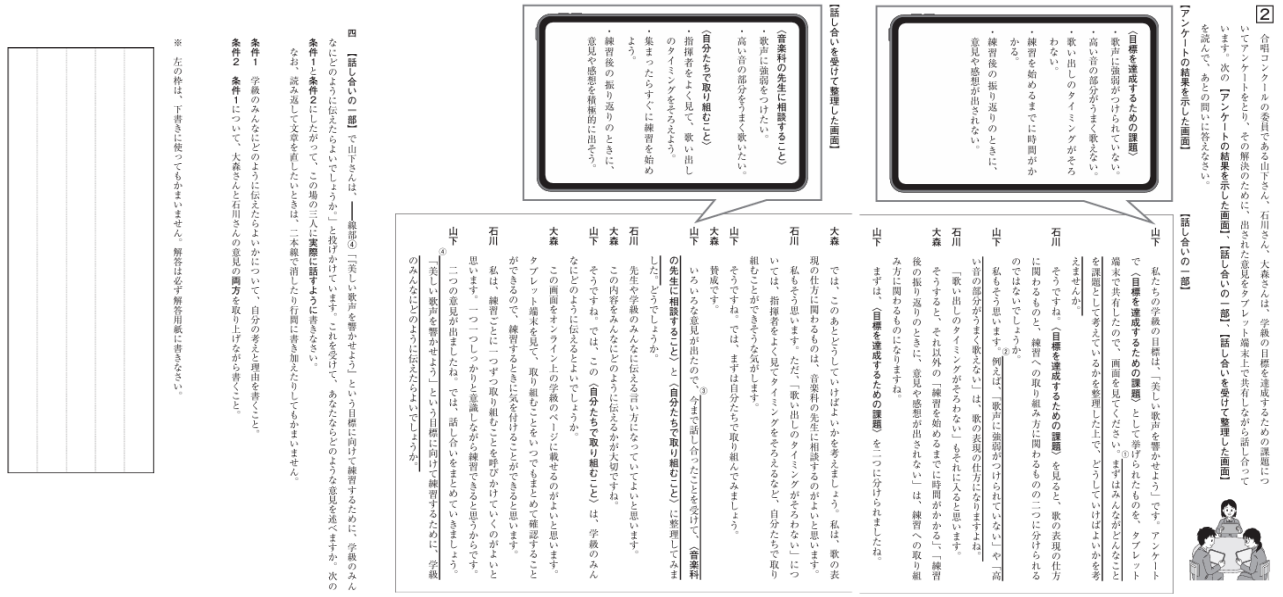
❑【中学校】国語

※正答率はさいたま市を含めた数値　※（　）内の値は全国〔公立〕の正答率

結果のポイント	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、**結論を導くために考えをまとめることに課題**がある。（話すこと・聞くこと）【思考・判断・表現】
正答率	５４.９％（５２.７％）
結果の概要 **無解答率** **１１.８％** **（１４.７％）**	**話し合った内容を取り上げて記述できなかった**生徒が１５.８％（１５.１％）いた。**相手の考えを聞きながら、話し合った内容を踏まえて自分の考えを述べることが十分でない**ことが考えられる。
指導改善のポイント ※ポイントの記載内容は国が作成した報告書から引用。	自分の考えのみを述べるだけではなく、**相手の考えとの共通点や異なる点、新たな視点などを踏まえて考えをまとめるような言語活動**を充実させることが重要である。

〔設問〕大問２四

話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く問題



〔出典元〕令和8年度全国学力・学習状況調査　報告書【中学校／国語】P.32～43（https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26mlang.pdf）

３　埼玉県の学力調査結果の概況（県の結果から課題となった設問について）

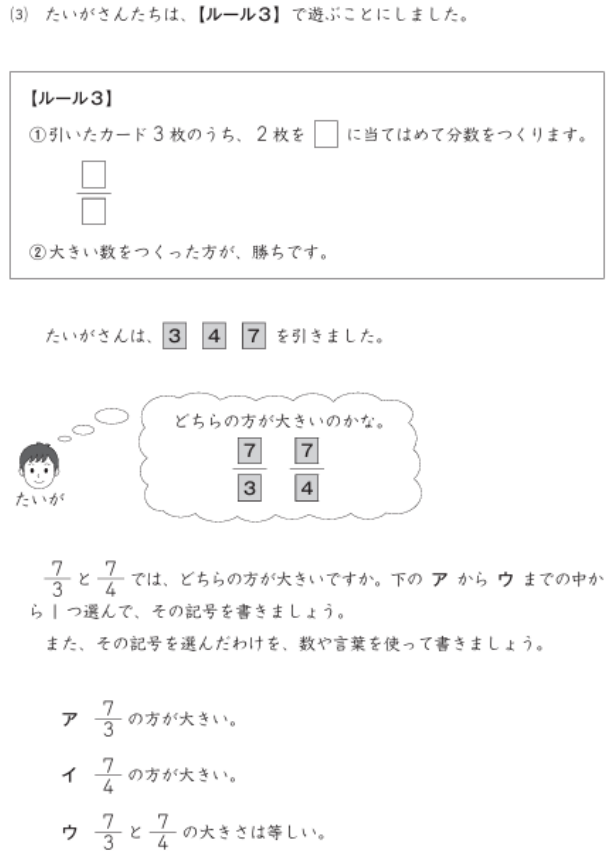
❑【小学校】算数

※正答率はさいたま市を含めた数値　※（　）内の値は全国〔公立〕の正答率

結果のポイント	**異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述することに課題**がある。（数と計算）【思考・判断・表現】
正答率	４１.８％（４４.０％）
結果の概要 **無解答率** **2.9%** **（3.2%）**	「７／３の方が大きい」と正しく判断したが、**その理由を適切に記述できなかった**児童が２５.６％（２３.２％）いた。また、「７／４の方が大きい」と**誤って判断した**児童が２５.２％（２５.２％）いた。**分数の意味や大小関係についての理解が十分でない**ことが考えられる。
指導改善のポイント ※ポイントの記載内容は国が作成した報告書から引用。	分数の意味や大小関係の比較方法について、**数や言葉を用いて論理的に説明する学習活動**を充実させることが重要である。

〔設問〕大問３（３）

７／３と７／４のどちらの方が大きいかを判断し、その理由を書く問題


(3)　たいがさんたちは、【ルール3】で遊ぶことにしました。

【ルール3】
①引いたカード３枚のうち、２枚を□に当てはめて分数をつくります。
□/□
②大きい数をつくった方が、勝ちです。

たいがさんは、3　4　7　を引きました。

たいが　どちらの方が大きいのかな。　7/3　7/4

$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ では、どちらの方が大きいですか。下の ア から ウ までの中から１つ選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

ア　$\frac{7}{3}$ の方が大きい。
イ　$\frac{7}{4}$ の方が大きい。
ウ　$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の大きさは等しい。

〔出典元〕令和8年度全国学力・学習状況調査　報告書【小学校／算数】P.68～89（https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26pmath.pdf）

３　埼玉県の学力調査結果の概況（県の結果から課題となった設問について）

❑【中学校】数学

※正答率はさいたま市を含めた数値　※（　）内の値は全国〔公立〕の正答率

結果のポイント	**データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することに課題**がある。（データの活用）【思考・判断・表現】
正答率	３３.１％（３１.９％）
結果の概要 **無解答率** **２６.２％** **（２８.９％）**	**形に関する内容のみを記述した**生徒が１１.０％（１０.３％）いた。**位置に関する内容のみを記述した**生徒が４.６％（４.４％）いた。また、形に関する記述はあるが、**位置に関する記述が不十分な**生徒が９.４％（１０.２％）いた。**判断の理由を説明する根拠が十分でない**ことが考えられる。
指導改善のポイント ※ポイントの記載内容は国が作成した報告書から引用。	根拠が不十分な説明に着目して、十分な説明になるように全体で練り上げるなど、**主張の根拠を数学的な表現を用いて明確に説明する学習活動**を充実させることが重要である。

〔設問〕大問９（３）

主張の理由について、二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する問題

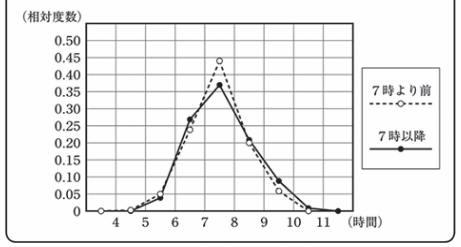
（３）二人は、睡眠時間の特徴をさらに知りたいと思い、全校生徒を次のように分け、睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

桃音さん…起床時刻が７時より前と７時以降の生徒に分ける
悠真さん…就寝時刻が23時より前と23時以降の生徒に分ける

桃音さんは、起床時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形（度数折れ線）に表しました。

桃音さんが調べたこと

起床時刻が７時より前の生徒･･･211人
起床時刻が７時以降の生徒･････ 89人



桃音さんは、上の２つの度数分布多角形を比較して、次のようにまとめました。

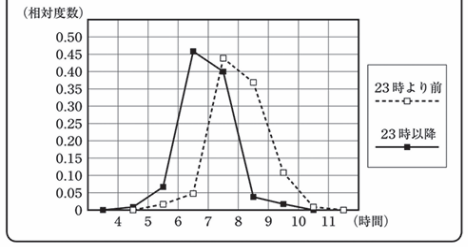
桃音さんのまとめ

２つの度数分布多角形は同じような形である。また、２つの度数分布多角形はほぼ同じ位置にある。
したがって、起床時刻が７時より前の生徒と７時以降の生徒の睡眠時間は同じような傾向にある。

悠真さんは、就寝時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形に表しました。

悠真さんが調べたこと

就寝時刻が23時より前の生徒･･･152人
就寝時刻が23時以降の生徒･････148人



悠真さんが調べたことの２つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、**悠真さんが調べたこと**の２つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの**桃音さんのまとめ**を参考にして、下の**説明**を完成しなさい。

説明

（　　）したがって、就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

〔出典元〕令和8年度全国学力・学習状況調査　報告書【中学校／数学】P.72～84（https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26mmath.pdf）

３　埼玉県の学力調査結果の概況（県の結果から課題となった設問について）

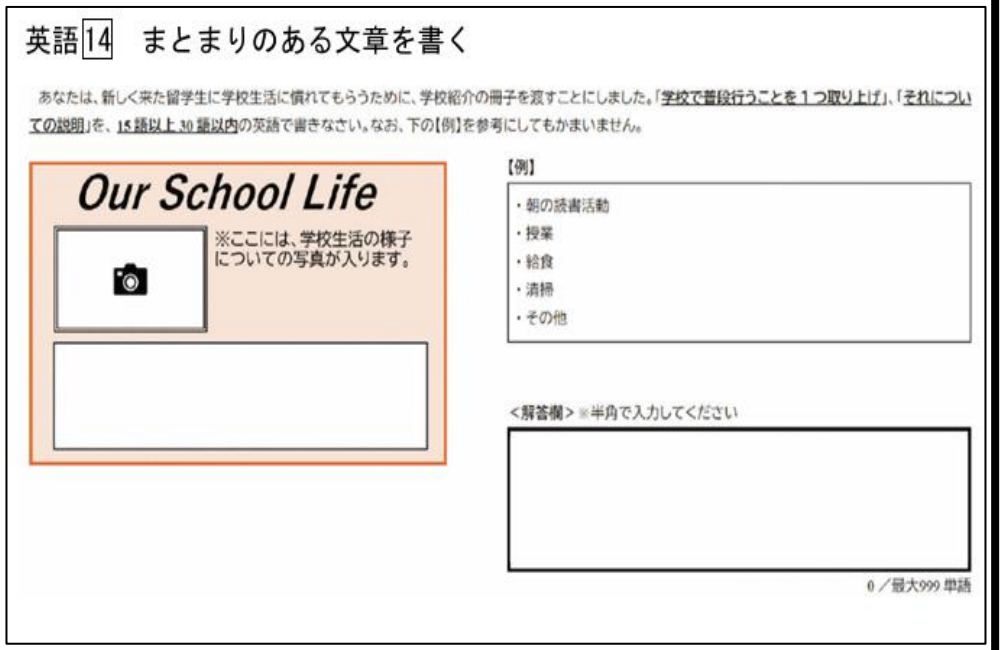
❑【中学校】英語

※正答率はさいたま市を含めた数値　※（　）内の値は全国〔公立〕の正答率

結果のポイント	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、**まとまりのある文章を書くことに課題**がある。（書くこと）【思考・判断・表現】
正答率	３１.５％（２７.８％）
結果の概要 **無解答率** **１１.４％** **（１４.２％）**	正答の条件の一つ「１５語以上３０語以内の英語で書いている」に対して、**１５語以上で記述できなかった**生徒が２６.２％（２８.２％）いた。語句または１文、２文のみで書いており、**書く内容または書く表現が十分でない**ことが考えられる。
指導改善のポイント ※ポイントの記載内容は国が作成した報告書から引用。	書く前に、ペアで英語によるやり取りを繰り返し、友達の考えや表現を参考に自分の考えを英語で書かせるなど、**「話すこと」と「書くこと」を組み合わせた言語活動**を充実させることが重要である。

〔設問〕大問１４

学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く問題



〔出典元〕令和8年度全国学力・学習状況調査　報告書【中学校／英語】P.105～109（https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26meng.pdf）

４　埼玉県の質問調査結果の概要（さいたま市を含む）

児童生徒質問調査

質問事項	年度	小学校第6学年 県(%)	小学校第6学年 国(%)	中学校第3学年 県(%)	中学校第3学年 国(%)
1 自分にはよいところがあると思う	R8	87.2	85.6	86.9	84.0
	R7	88.5	86.9	88.0	86.2
2 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う	R8	93.4	91.4	94.4	90.9
	R7	94.8	92.2	95.3	92.2
3 将来の夢や目標を持っている	R8	83.4	81.8	70.1	67.6
	R7	84.7	83.1	69.9	67.5
4 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う	R8	80.7	77.9	81.4	78.6
	R7	81.6	78.1	81.7	79.2
5 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている	R8	81.8	79.4	81.3	78.2
	R7	84.8	81.7	81.0	77.5
6 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	R8	71.8	66.4	72.6	65.5
	R7	75.7	68.6	71.2	63.0
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	R8	86.2	79.9	88.2	80.8
	R7	88.6	82.3	88.0	79.5
8 自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	R8	86.8	81.5	89.9	84.5
	R7	89.3	83.3	89.9	84.3
9 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	R8	91.9	90.4	89.6	88.2
	R7	92.1	90.4	89.5	88.3
10 算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	R8	92.2	91.0	76.2	76.5
	R7	93.0	91.6	74.3	75.2
11 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい	R8	46.4	45.4	35.0	34.1
	R5	54.1	52.5	36.8	36.7

学校質問調査

質問事項	年度	小学校第6学年 県(%)	小学校第6学年 国(%)	中学校第3学年 県(%)	中学校第3学年 国(%)
1 児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	R8	94.3	88.1	89.7	87.2
	R7	92.6	89.3	91.8	88.2
2 児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	R8	93.0	89.5	88.8	85.4
	R7	94.1	89.9	91.2	86.1
3 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	R8	92.1	87.0	84.9	79.9
	R7	93.2	86.9	85.9	80.3
4 児童（生徒）同士がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させている	R8	44.1	42.5	35.9	36.1
	R7	48.1	46.3	37.8	39.3
5 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	R8	98.6	96.7	97.1	93.6
	R7	99.2	96.5	94.5	94.0

【児童生徒質問調査】
※質問事項は、小学校　７３項目、中学校　８０項目からの抜粋
※「当てはまる（できている、している）」「どちらかといえば、当てはまる（できている、している）」を合わせた値

【学校質問調査】
※質問事項は、小学校　８５項目、中学校　９３項目からの抜粋
※「よく行った（そう思う）」「どちらかといえば、行った（そう思う）」を合わせた値（４のみ「ほぼ毎日」「週３回以上」を合わせた値）

【色分けの見方について】
赤字 ・・・ 県が全国より高い数値　／　赤字 ・・・ 県が全国より＋３pt.以上高い数値　／
□ ・・・ 県の前年度より高い数値

４　埼玉県の質問調査結果の概要（さいたま市を除く）

児童生徒質問調査

質問事項	年度	小学校第6学年 県(%)	小学校第6学年 国(%)	中学校第3学年 県(%)	中学校第3学年 国(%)
1 自分にはよいところがあると思う	R8	85.6	85.6	85.5	84.0
	R7	87.2	86.9	86.6	86.2
2 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う	R8	92.7	91.4	93.8	90.9
	R7	94.2	92.2	94.7	92.2
3 将来の夢や目標を持っている	R8	83.4	81.8	70.2	67.6
	R7	85.0	83.1	69.6	67.5
4 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う	R8	78.7	77.9	79.7	78.6
	R7	79.8	78.1	79.9	79.2
5 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている	R8	79.9	79.4	79.8	78.2
	R7	83.2	81.7	79.3	77.5
6 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	R8	70.1	66.4	70.6	65.5
	R7	74.0	68.6	69.4	63.0
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	R8	84.9	79.9	86.9	80.8
	R7	87.5	82.3	86.8	79.5
8 自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	R8	85.7	81.5	89.2	84.5
	R7	88.3	83.3	89.3	84.3
9 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	R8	91.3	90.4	89.1	88.2
	R7	91.4	90.4	89.0	88.3
10 算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	R8	91.8	91.0	75.8	76.5
	R7	92.5	91.6	73.9	75.2
11 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい	R8	46.0	45.4	34.3	34.1
	R5	53.6	52.5	35.8	36.7

学校質問調査

質問事項	年度	小学校第6学年 県(%)	小学校第6学年 国(%)	中学校第3学年 県(%)	中学校第3学年 国(%)
1 児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	R8	94.2	88.1	89.4	87.2
	R7	93.0	89.3	91.6	88.2
2 児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	R8	92.4	89.5	87.7	85.4
	R7	93.7	89.9	90.5	86.1
3 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	R8	93.0	87.0	84.7	79.9
	R7	92.9	86.9	85.5	80.3
4 児童（生徒）同士がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させている	R8	41.9	42.5	32.1	36.1
	R7	46.6	46.3	36.5	39.3
5 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	R8	98.7	96.7	97.2	93.6
	R7	99.3	96.5	94.4	94.0

【児童生徒質問調査】
※質問事項は、小学校　７３項目、中学校　８０項目からの抜粋
※「当てはまる（できている、している）」「どちらかといえば、当てはまる（できている、している）」を合わせた値

【学校質問調査】
※質問事項は、小学校　８５項目、中学校　９３項目からの抜粋
※「よく行った（そう思う）」「どちらかといえば、行った（そう思う）」を合わせた値（４のみ「ほぼ毎日」「週３回以上」を合わせた値）

【色分けの見方について】
赤字 ・・・ 県が全国より高い数値　／　赤字 ・・・ 県が全国より＋３pt.以上高い数値　／
□ ・・・ 県の前年度より高い数値

令和８年度全国学力・学習状況調査　埼玉県全体〔公立〕の調査結果概要

５　質問調査結果と学力調査結果の「クロス分析」等から見える 埼玉県の傾向

※クロス分析については、相関関係*が見られるかを分析したものである。クロス分析の詳細は、Ｐ．１４～１８を参照。　〔*二つの項目の間の何らかの関係性のこと。〕

➤「学級経営」と「主体的・対話的で深い学び」、「非認知能力・学習方略」との関係

ポイント

- 「学級経営」が「主体的・対話的で深い学び」の実現に重要である。
- 「学級経営」が「非認知能力」や「学習方略」の向上に重要である。

➤「主体的・対話的で深い学び」、「非認知能力・学習方略」と「学力」との関係

ポイント

- 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている児童生徒ほど、各教科の正答率等が高くなる傾向が見られる。
- 「学習方略」などを身に付けていると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率等が高くなる傾向が見られる。

➤「ICTを活用する自信」と「学びへの意欲・工夫」との関係

ポイント

- ICT機器を使って情報を整理することができる児童生徒ほど、課題の解決に向けて自分で考えて取り組む傾向が見られる。
- ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成できる児童生徒ほど、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表する傾向が見られる。

➤「ICTを活用する自信」と「学力」との関係

ポイント

- ICT機器で文章を作成できる児童生徒ほど、各教科の正答率等が高くなる傾向が見られる。
- ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成できる児童生徒ほど、各教科の正答率等が高くなる傾向が見られる。

➤全国学調の結果活用・指導方法の改善について

ポイント

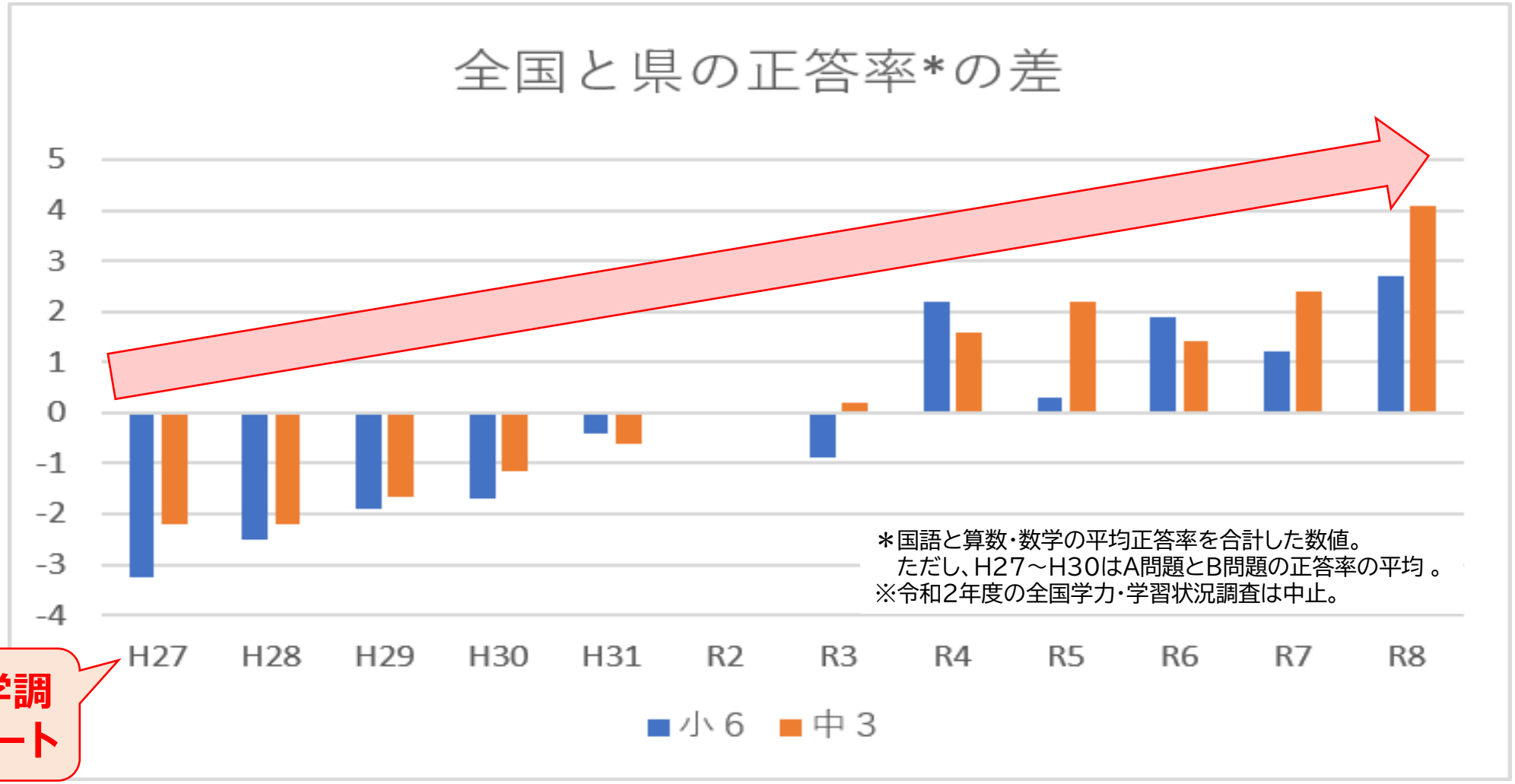
- ほぼ全ての小中学校において、全国学調の自校の結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用していたり、指導方法の改善や工夫を着実に行ったりしている。

➤「指導方法の改善」と「学力」との関係

ポイント

- 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行っている学校ほど、各教科の正答率等が高くなる傾向が見られる。

６　全国と埼玉県の「正答率の差」の推移



全国学力・学習状況調査における正答率について、埼玉県学力・学習状況調査開始以降は年々改善し、近年は県の正答率が全国の正答率を上回っている。

7　埼玉県の「全体的な傾向〔成果と課題〕」と「学力向上推進に向けた取組」

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果から見える 埼玉県の「全体的な傾向」

成果

●小・中学校ともに、**全ての教科において全国の平均正答率・平均IRTスコアを上回った**。また、児童生徒及び学校質問調査では、「主体的・対話的で深い学び」について、全国平均より肯定的な回答が多い。

➠**全国学力・学習状況調査**に加えて、**埼玉県学力・学習状況調査を活用した授業改善等が各学校で着実に進んでいる成果**であると捉えている。

課題

●学力調査において、各教科の分析で扱った問題以外にも、**記述式問題**〔小・国語「書き表し方を工夫する」、中・国語「文章を読んで理解したことを書く」、小・算数「根拠を表の中の数と言葉を用いて説明する」、中・数学「事柄の特徴や問題解決の方法を説明する」、中・英語「社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く」〕**の正答率が**、小・中学校ともに、**他の問題と比べて低い傾向**が見られる。

●児童生徒・学校質問調査では、**ICT機器の活用について、授業における日常の使用頻度や学習の場面・状況等に応じた効果的な活用**に課題が考えられる。

対策

➠県では全国学力・学習状況調査で明らかとなった課題を分析し、各市町村の担当指導主事が参加する会議等において、**記述をはじめとして思考力・判断力・表現力を高めるための指導方法の工夫や授業改善の視点などについて協議を行ったり、具体的な知見を示したりする**ことで、各市町村が学校の実態に応じて教員の指導力向上を図れるよう支援していく。

➠ICT機器の活用を推進するために、県が作成した「教育課程実践追加事例」や「デジタル教科書活用ガイド」などを活用し、**デジタル学習基盤による学習場面の利点を生かした授業改善の指導・助言**や、**優れた事例の共有・普及**を行う。

埼玉県の「学力向上推進に向けた取組」

➠県が作成した**「学級経営リーフレット」、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修プログラム」や「主体的・対話的で深い学びの視点による質問調査」などの活用**を促し、学校や教員が日々の授業改善に役立てられるよう推進していく。

➠**優れた指導技術を持つ教員の授業動画の拡充**、**県学力・学習状況調査結果の活用・分析の支援**や、学力に課題があり支援が必要な市町村・学校に対して**授業改善等に向けた指導・助言**を行っていく。

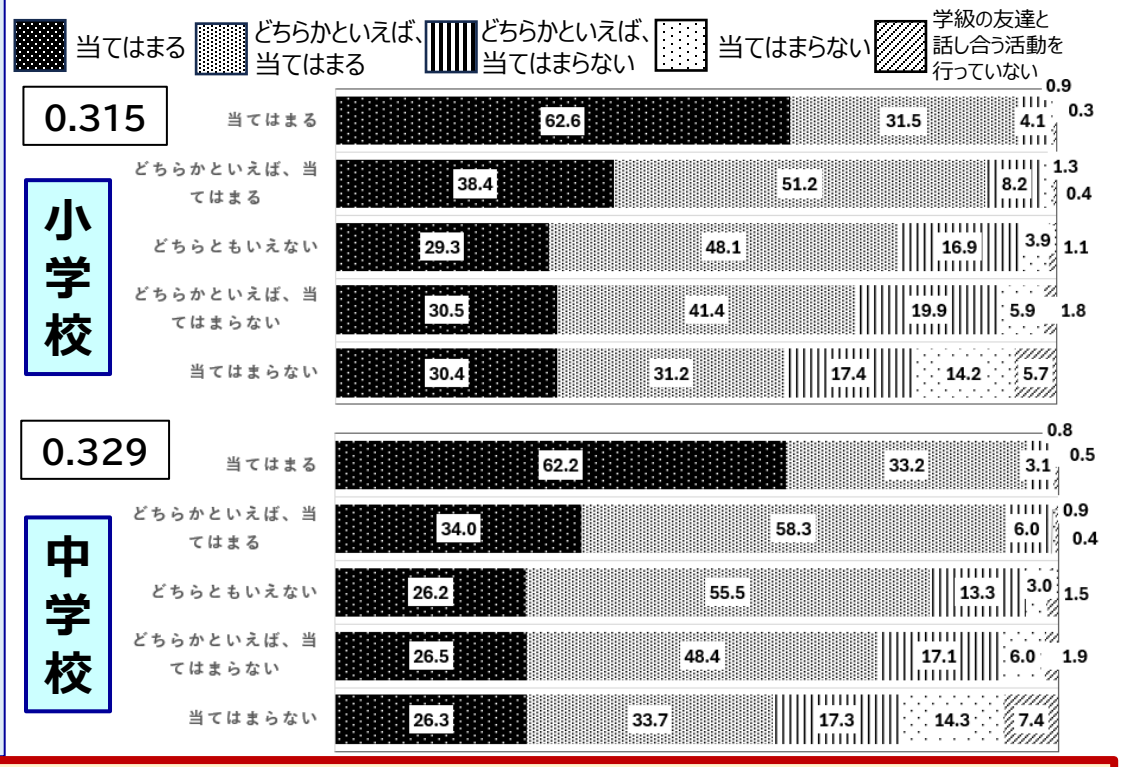
➠**学力を大きく伸ばした市町村の好事例を収集し、広く県内に普及させる**ことで、教員の授業改善と児童生徒の学力向上へとつなげていく。

【参考】クロス分析〔質問×質問〕 ➤➤ 学級経営×主体的・対話的で深い学び、非認知能力など

「人と違う意見を言っても否定されない」×「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできる」

クロス集計　学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。　※□内の数値は相関係数

自分の学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う。

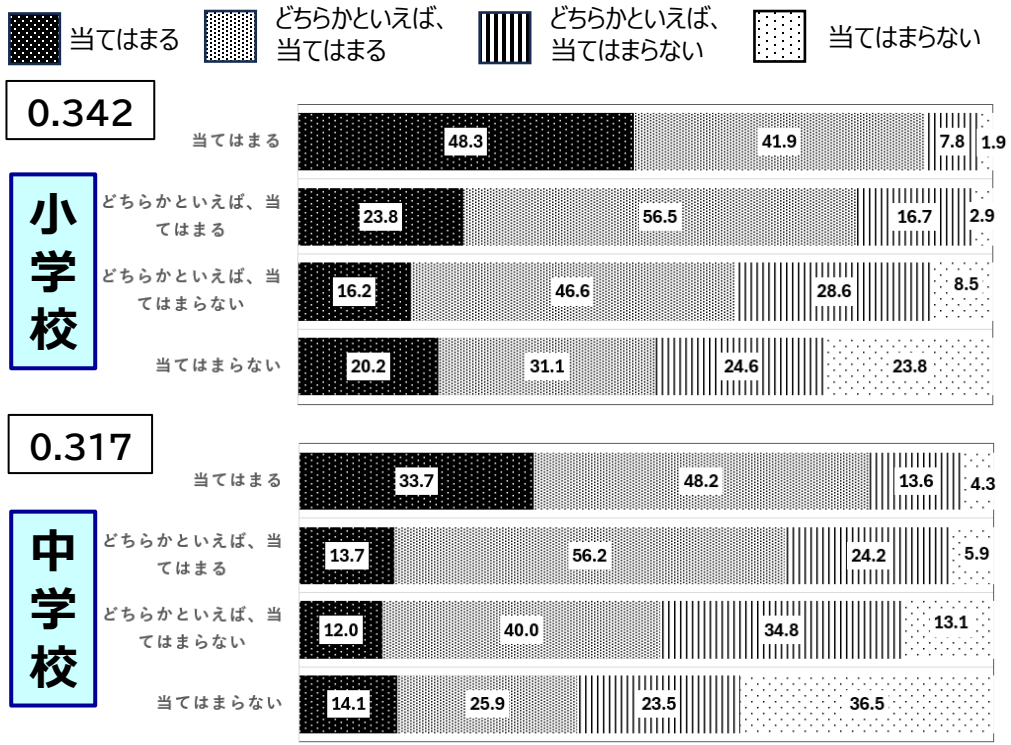


ポイント　**「学級経営」に関する回答と「主体的・対話的で深い学び」に関する回答の間には相関が見られる。「学級経営」が「主体的・対話的で深い学び」の実現に重要である。**

「自分の学級では、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」×「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」

クロス集計　地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。　※□内の数値は相関係数

自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている。



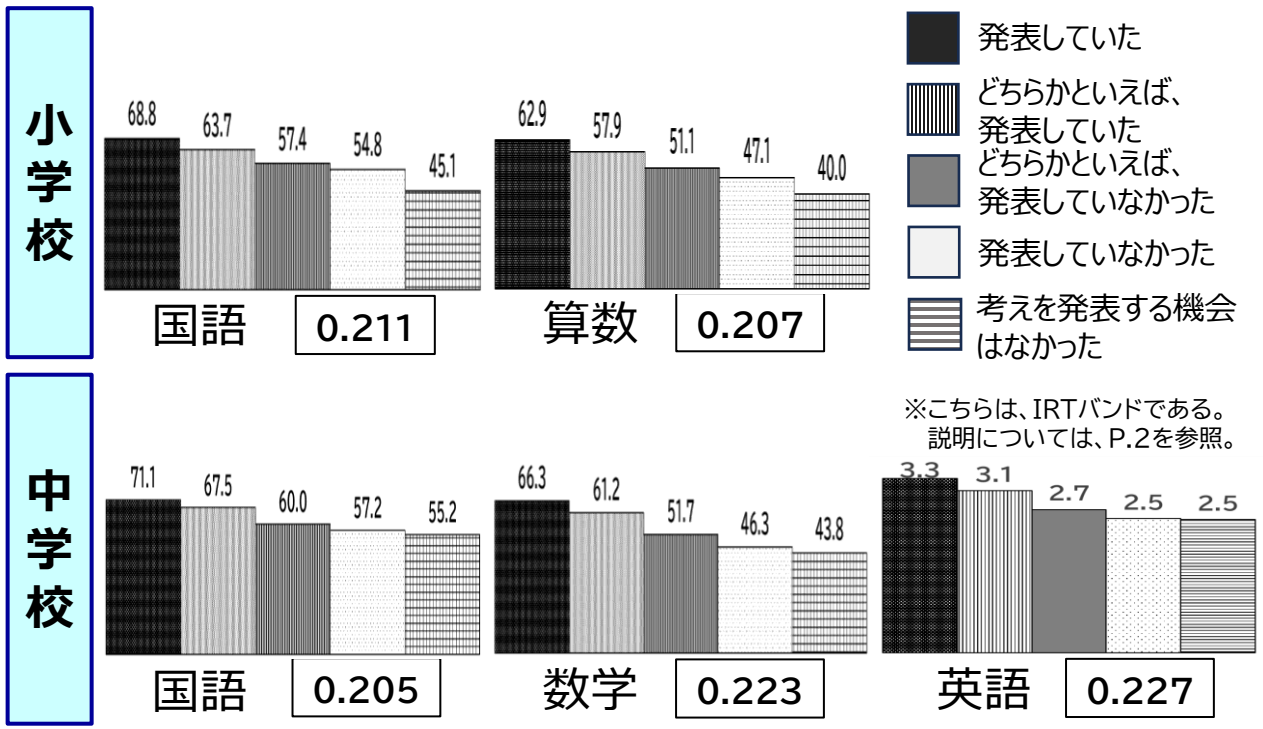
ポイント　**「学級経営」に関する回答と「非認知能力」「学習方略」などに関する回答の間には相関が見られる。「学級経営」が「非認知能力」や「学習方略」の向上に重要である。**

令和８年度全国学力・学習状況調査　埼玉県全体〔公立〕の調査結果概要

【参考】クロス分析〔質問×学力〕 ➤➤ 主体的・対話的で深い学び、学習方略など × 学力

前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTバンド※　□内の数値は相関係数

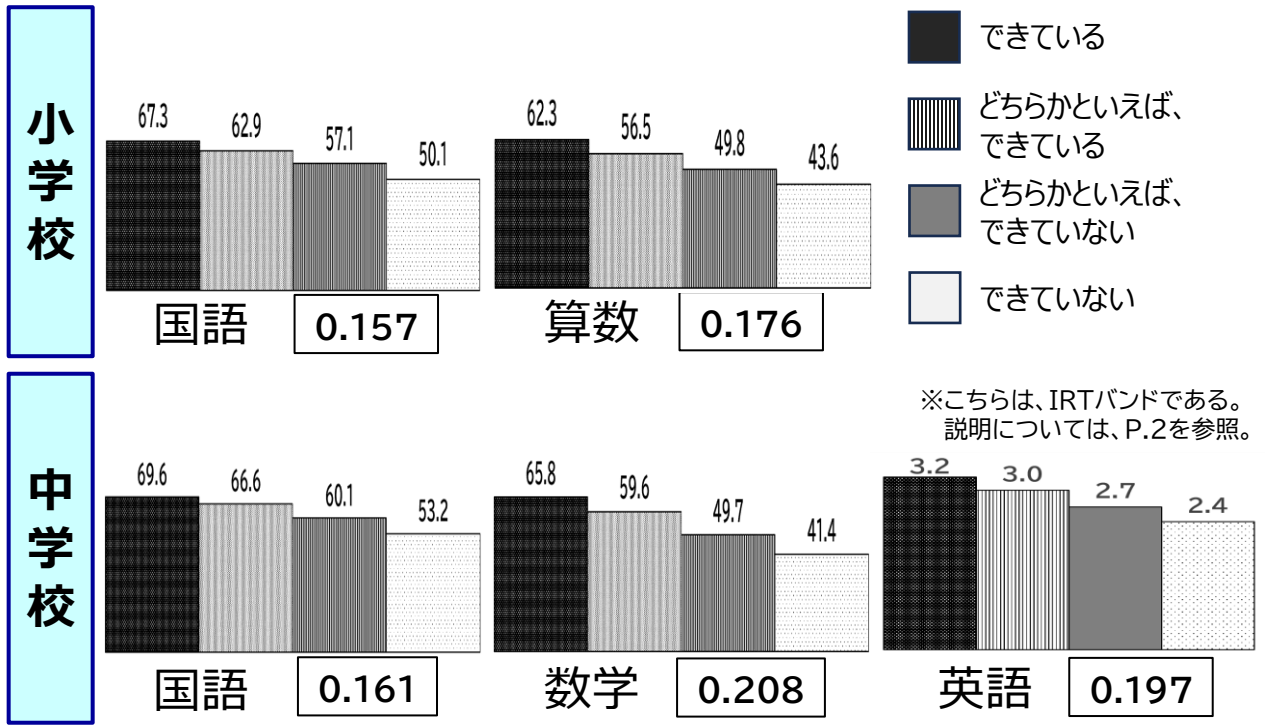


※こちらは、IRTバンドである。説明については、P.2を参照。

ポイント　「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・IRTバンドが高くなる傾向が見られる。

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTバンド※　□内の数値は相関係数



※こちらは、IRTバンドである。説明については、P.2を参照。

ポイント　「学習方略」などを身に付けていると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・IRTバンドが高くなる傾向が見られる。

本調査結果からも、県学力・学習状況調査のこれまでの分析から得られた知見「『主体的・対話的で深い学び』の実施に加えて、『学級経営』が、児童生徒の『非認知能力』や『学習方略』を向上させ、学力向上につながること」と同様の傾向が見られる。

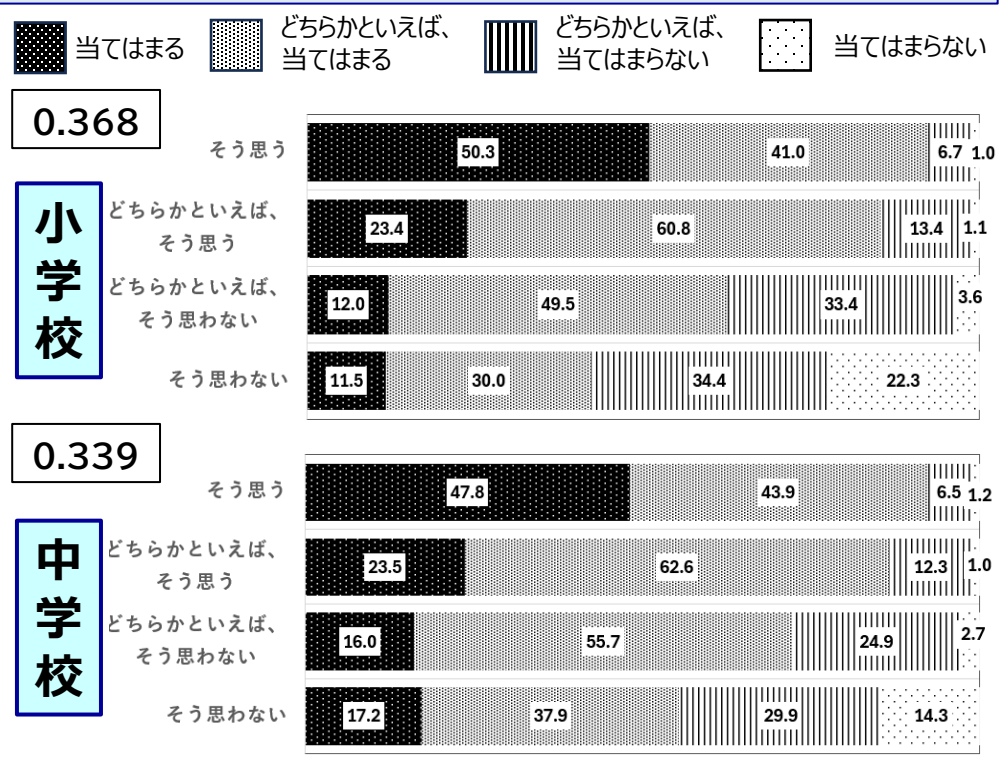
【参考】クロス分析〔質問×質問〕 ➤➤ ICTを活用する自信 × 学びへの意欲・工夫

「ICTで情報を整理できる」×「自分で学び方を考え、工夫している」

※□内の数値は相関係数

クロス集計　前年度までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。

自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめ）ことができる。



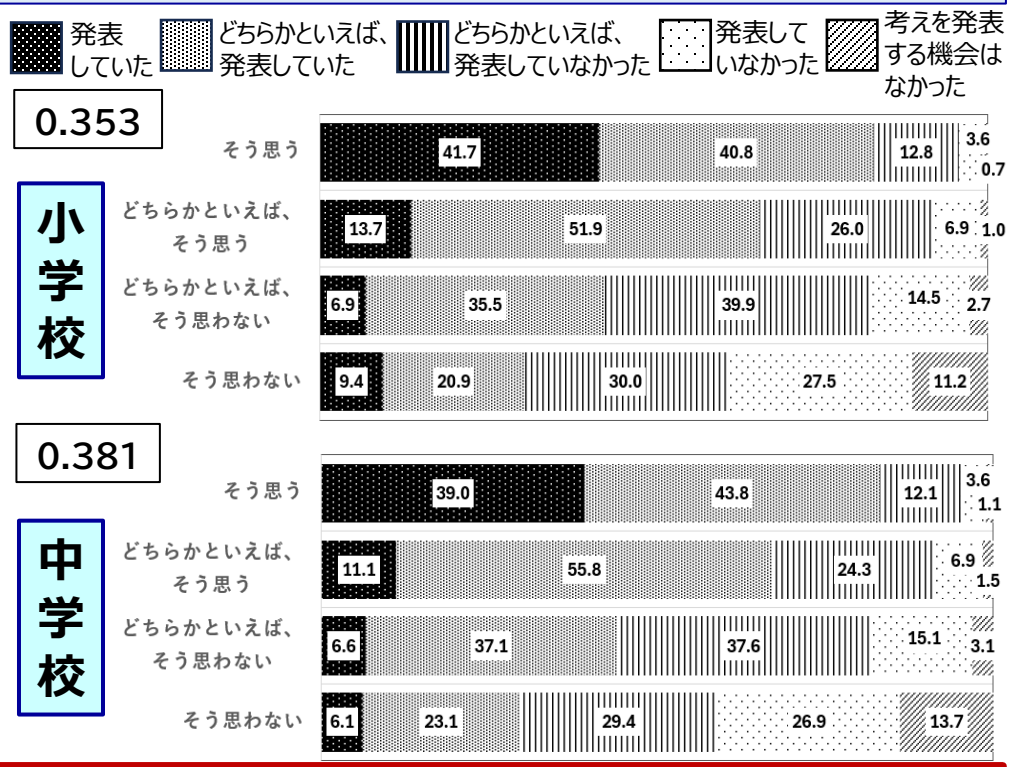
ポイント　ICT機器を使って情報を整理することができる児童生徒ほど、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組もうと考えていることについて、高くなる傾向が見られる。（学びへの意欲）

「プレゼンを作成することができる」×「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表した」

※□内の数値は相関係数

クロス集計　前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。

自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる。

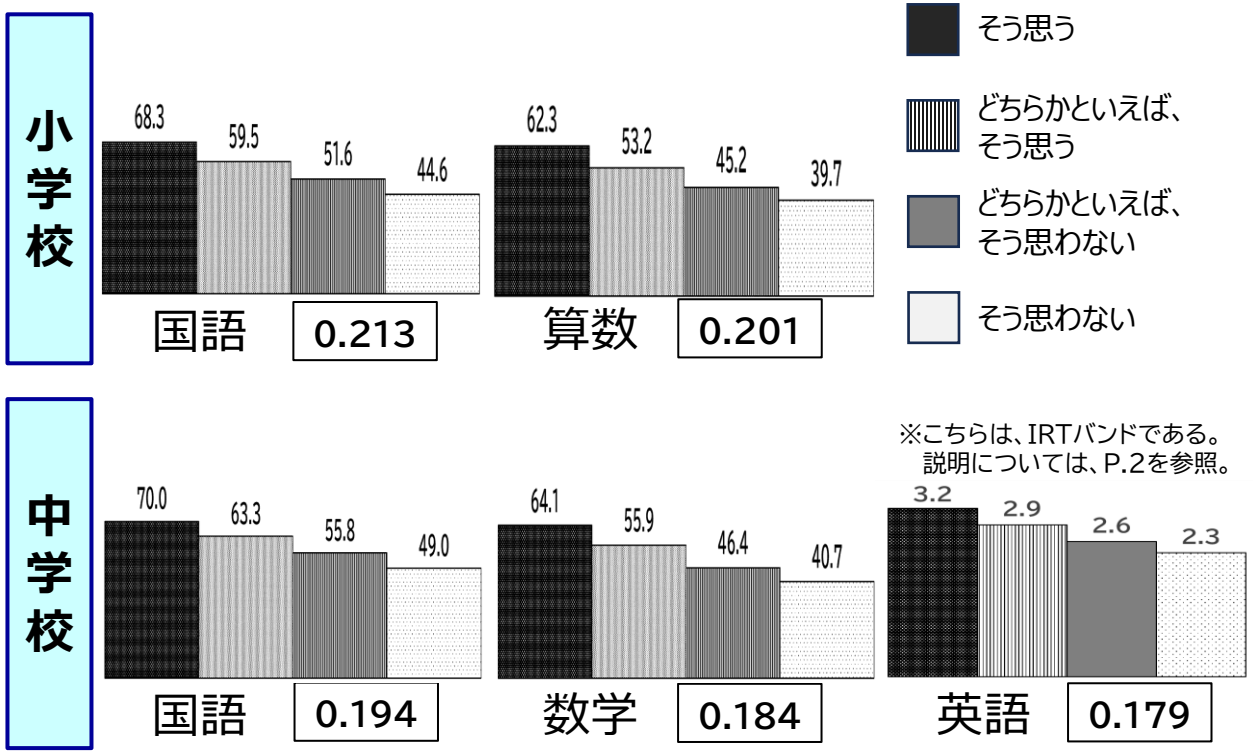


ポイント　ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成できる児童生徒ほど、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しようと考えていることについて、高くなる傾向が見られる。（学びの工夫）

【参考】クロス分析〔質問×学力〕 ➤➤ ICTを活用する自信 × 学力

自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる。

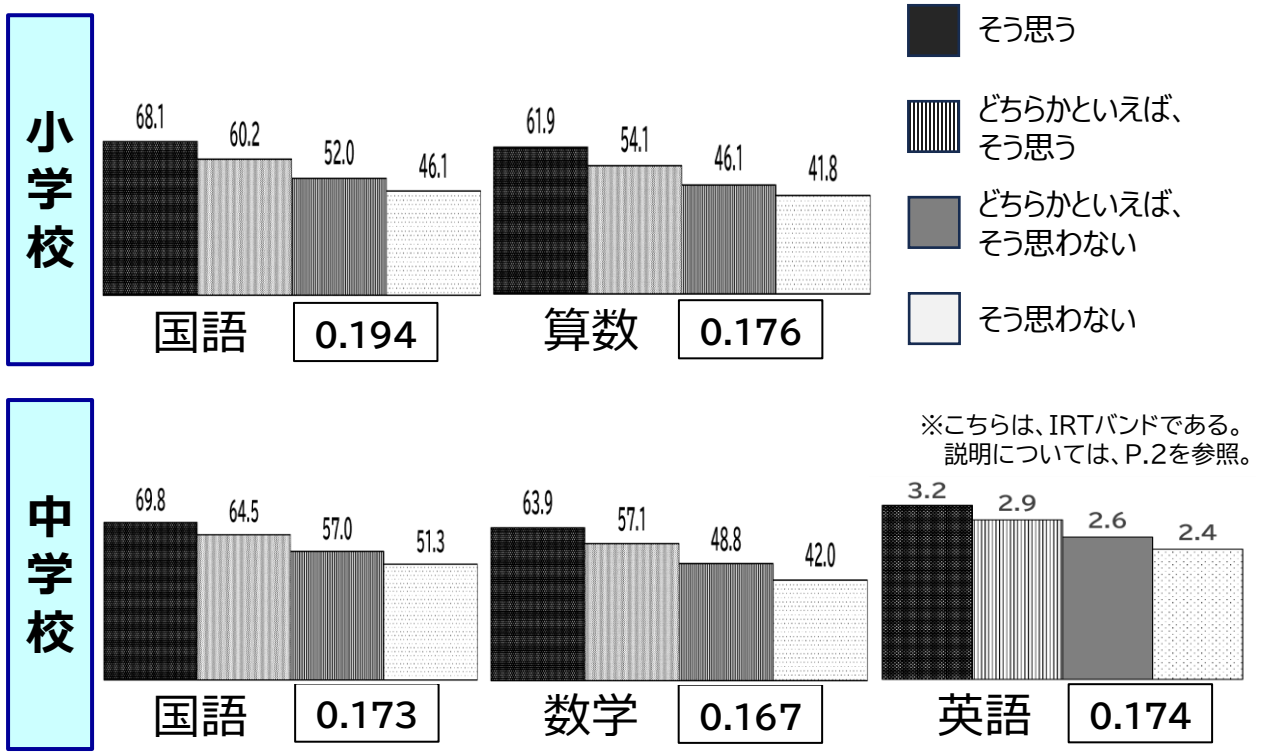
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTバンド※　内の数値は相関係数



ポイント　ICT機器で文章を作成できる児童生徒ほど、各教科の正答率・IRTバンドが高くなる傾向が見られる。

自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる。

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTバンド※　内の数値は相関係数



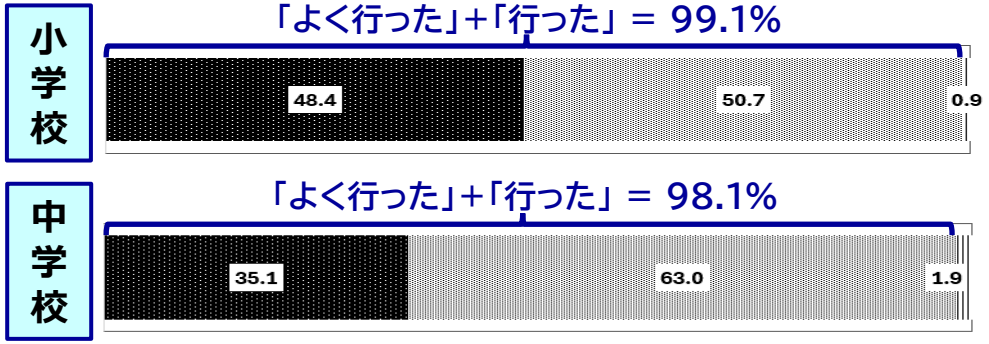
ポイント　ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成できる児童生徒ほど、各教科の正答率・IRTバンドが高くなる傾向が見られる。

県の全国学調の結果から、国による分析「ICT機器を主体的・能動的に活用できるよう、授業等を通じた情報活用能力を育成することが、学力向上に寄与する可能性が考えられる」と同様の傾向が見られる。

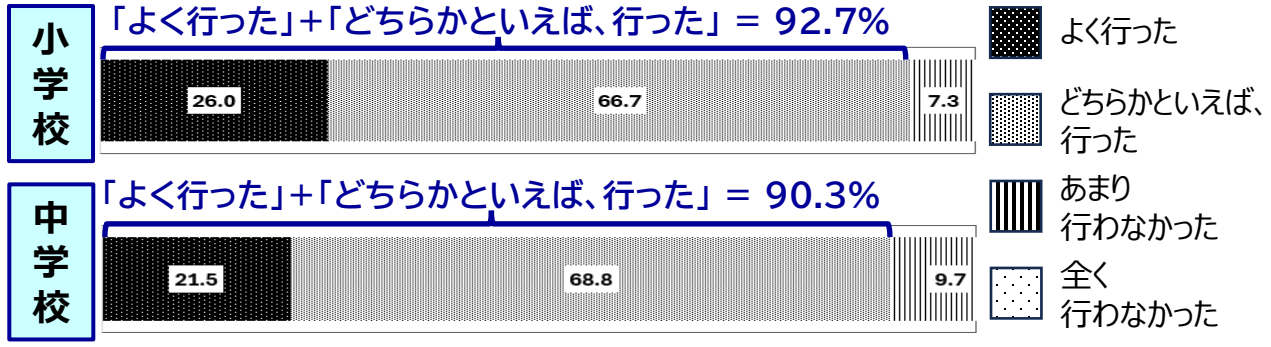
令和８年度全国学力・学習状況調査　埼玉県全体〔公立〕の調査結果概要

【参考】全国学調の結果活用・指導方法の改善

全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。



調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした。



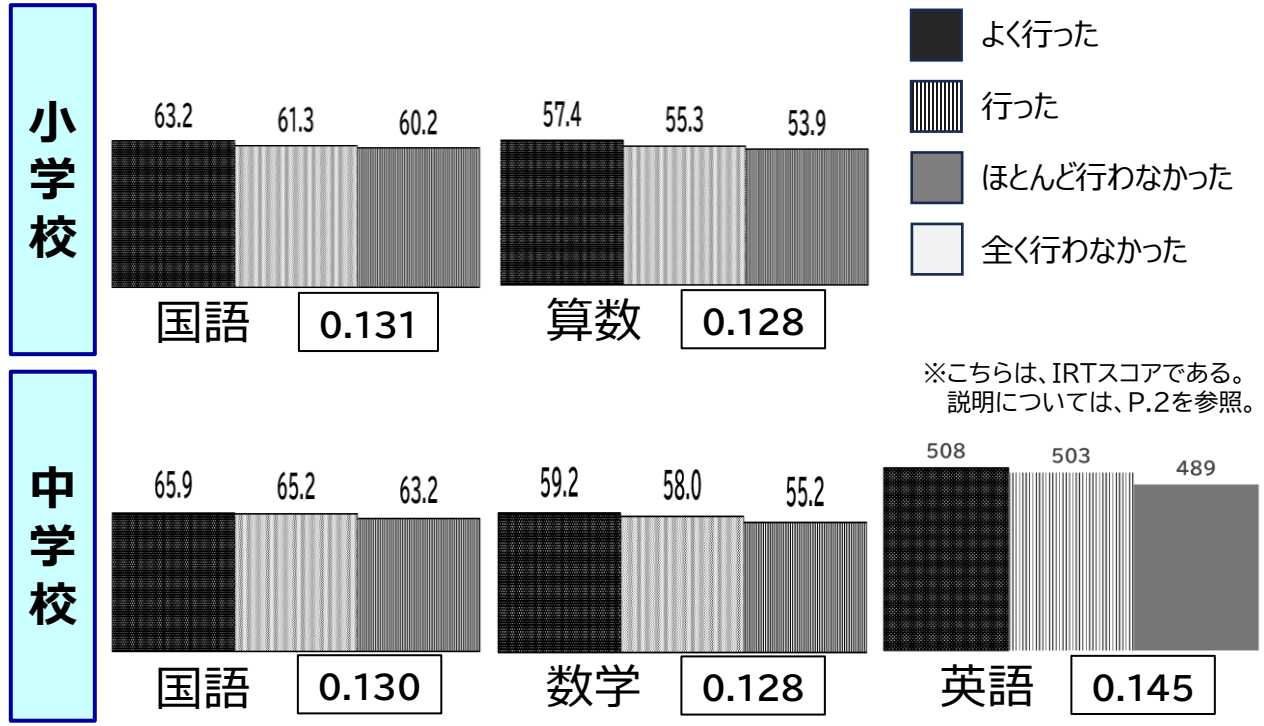
ポイント

ほぼ全ての小中学校において、全国学調の自校の結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用していたり、指導方法の改善や工夫を着実に行ったりしている。

【参考】クロス分析 ➤➤ 指導方法の改善 × 学力

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした。

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア※ □内の数値は相関係数



ポイント

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行っている学校ほど、各教科の正答率・IRTスコアが高くなる傾向が見られる。